



2021年8月、アフリカ南部のジンバブエに派遣された。この国は00年代に物価が急上昇するハイパーインフレが起きたジンバブエドルで有名だ。着任時には、暫定的な法定通貨RTGSドルが流通しており、日常生活では米ドルと併用していた。

私は首都ハラレにある、ジンバブエ初の教員養成校に入ると、トップینگを追加しないと、会計に進めないうように表記された値段設定にも出合った。そのたびに、先輩隊員のあの伝言が脳裏をよぎった。

主な活動内容は養成学校の体育科教員と一緒に小学校

体育教員養成 人生の宝



ジンバブエ
園田杏美さん(32)
広島県府中町出身

の教員を目指す学生に体育分野の指導をすることだった。いざ活動を始めてびっくりしたのが大量のリポートの山と、教え子が自分よりも年上の40代の学生たちだったことだ。

教員養成校の卒業試験では実技もあるのだが、筆記



卒業試験の実技テスト後に集合写真に納まる学生たち。前列右端が筆者

試験の難易度がかなり高い。私はスポーツ学部出身だが大学のゼミで取り扱うような高度な内容だった。結果、授業は大半が座学となり、レポートの提出がやたら多い。実技は大半ができず、週に1度のスポーツデーも実施できなかった。

「自分は体育の支援をしにきたのに…」という考えは即座に捨てざるを得なかった。ならばと、どうやれば実技の時間が増えるのか、どう指導すれば、学生が教壇で子どもたちに楽しい体育を教えることができるのかを必死に考えた。

正直、体育隊員としての活動は満足できるものではなかったが、ジンバブエでの1年9カ月は人生の宝物だ。当時、私は20代だったが経験したこととたくましく成長できたし、今、人生が格段に生きやすくなった。私は間違いなくジンバブエの人々から多くのものをもたらしたと思う。